

2017年3月期決算 中期経営計画(2017年度-2019年度) 説明会

2017年6月1日

 図書印刷株式会社 (7913: 東証1部)

-
- 1. 当社概要**
 2. 特徴・強み
 3. 2017年3月期決算・2018年3月期見通し
 4. 中期経営計画（2017年度～2019年度）
 5. 株主還元策

創業100年を超える出版印刷主体の印刷会社

社名	図書印刷株式会社
本社	東京都北区東十条三丁目10番36号
設立	昭和18年3月17日（創業：明治44年3月17日）
代表取締役社長	川田 和照
主要事業内容	<ul style="list-style-type: none">・製版、印刷、製本およびこれらに関連する各種加工ならびにその製品の販売・宣伝物、視聴覚媒体およびソフトウェアの企画、編集、制作、販売および賃貸借
グループ会社	関西図書印刷（株）、学校図書（株）
業績 （2017年3月期）	売上高 53,842百万円 営業利益 283百万円 親会社帰属当期純利益 10,687百万円 東京証券取引所第一部（証券コード: 7913）

凸版印刷グループ。創業100年超。教科書出版や新聞印刷も

- 明治44年 3月 川口印刷所として創立
(1911年)
- 昭和22年 9月 図書印刷（株）に商号変更
- 昭和23年 5月 学校図書（株）設立、**教科書出版事業に進出**
- 昭和24年 5月 **東京証券取引所に上場**
- 昭和29年11月 製版・印刷・製本一貫生産の現沼津工場（静岡県沼津市）を開設
- 昭和45年 3月 **凸版印刷（株）と業務提携**
- 昭和57年10月 関西図書印刷（株）設立
- 平成12年 9月 読売新聞大阪本社の業務委託で、**新聞印刷事業に進出**
- 平成19年10月 **凸版印刷（株）による子会社化（第三者割当増資、51%）**
- 平成19年11月 学校図書（株）を子会社化
- 平成23年 3月 **創業100周年**
(2011年)



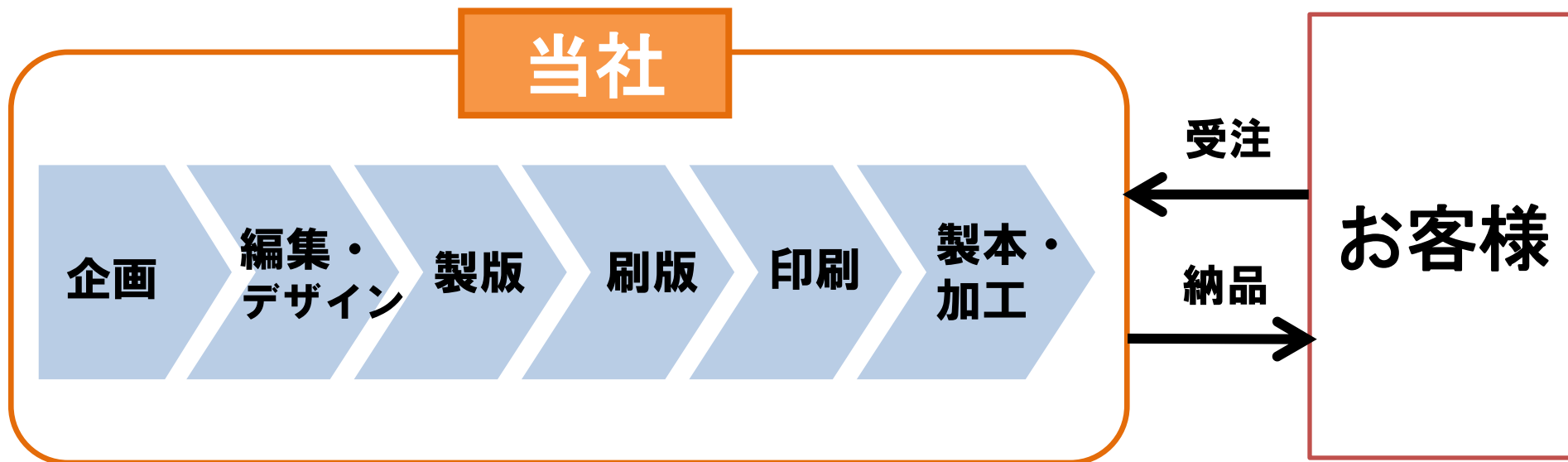
当社の祖業： 出版印刷を主体とした「紙の印刷」事業

企業理念

わたくしたちは、**印刷技術を核とした情報産業の担い手**としてあらゆるお客さまに信頼され評価される企業経営を通して文化の向上と社会の発展に貢献します

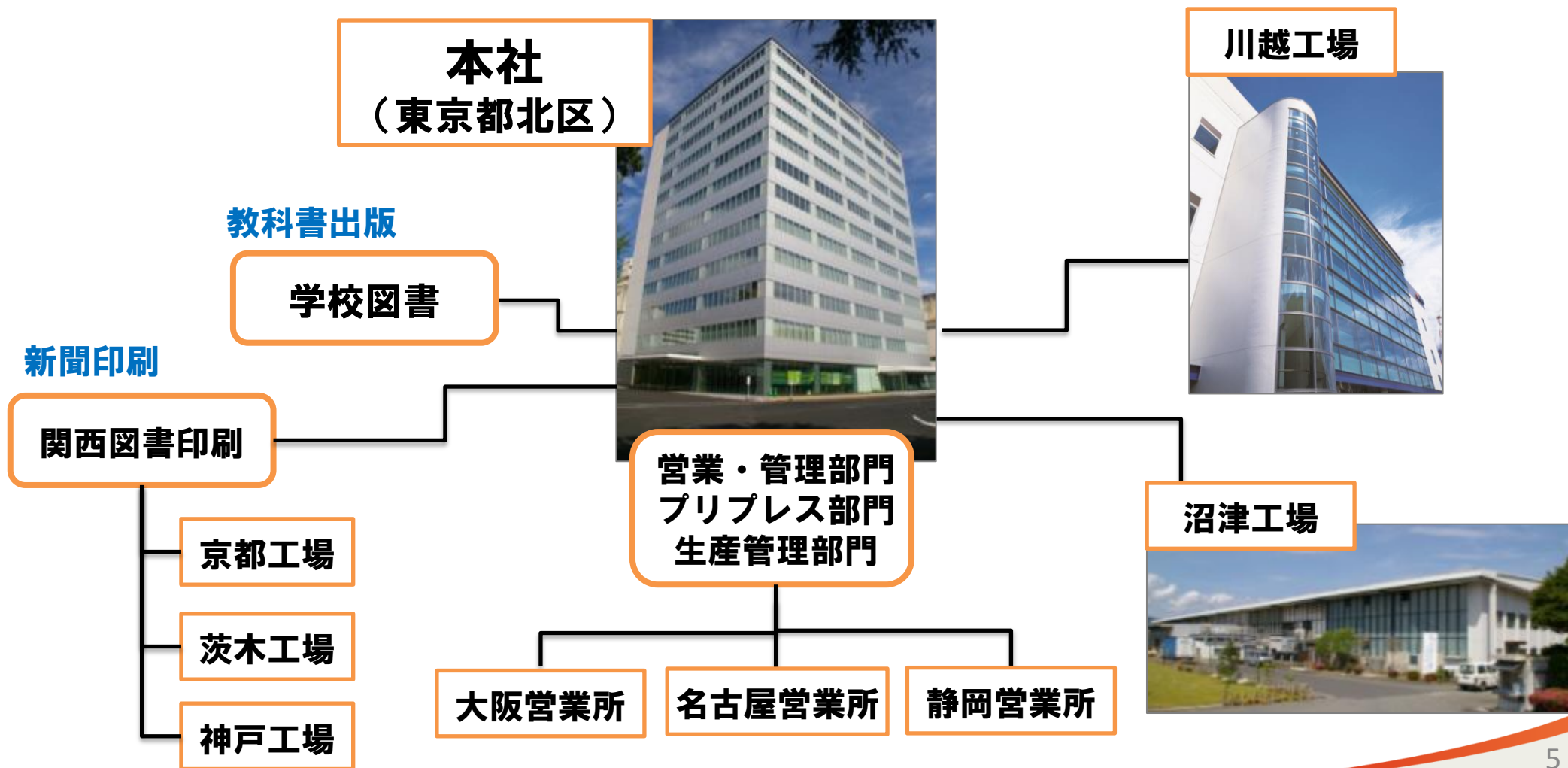
ビジネス

総合印刷会社として、**印刷前後の工程も含めた一貫したサービス**を提供



事業展開： 拠点は法人印刷需要多い「東名阪」に配置

印刷需要を的確・迅速にサポートするため、人口集積度の高い東名阪を中心に、効率的な事業展開。主力工場も、大都市圏及びその隣接エリアに立地。
関西地区では、新聞印刷工場も運営。

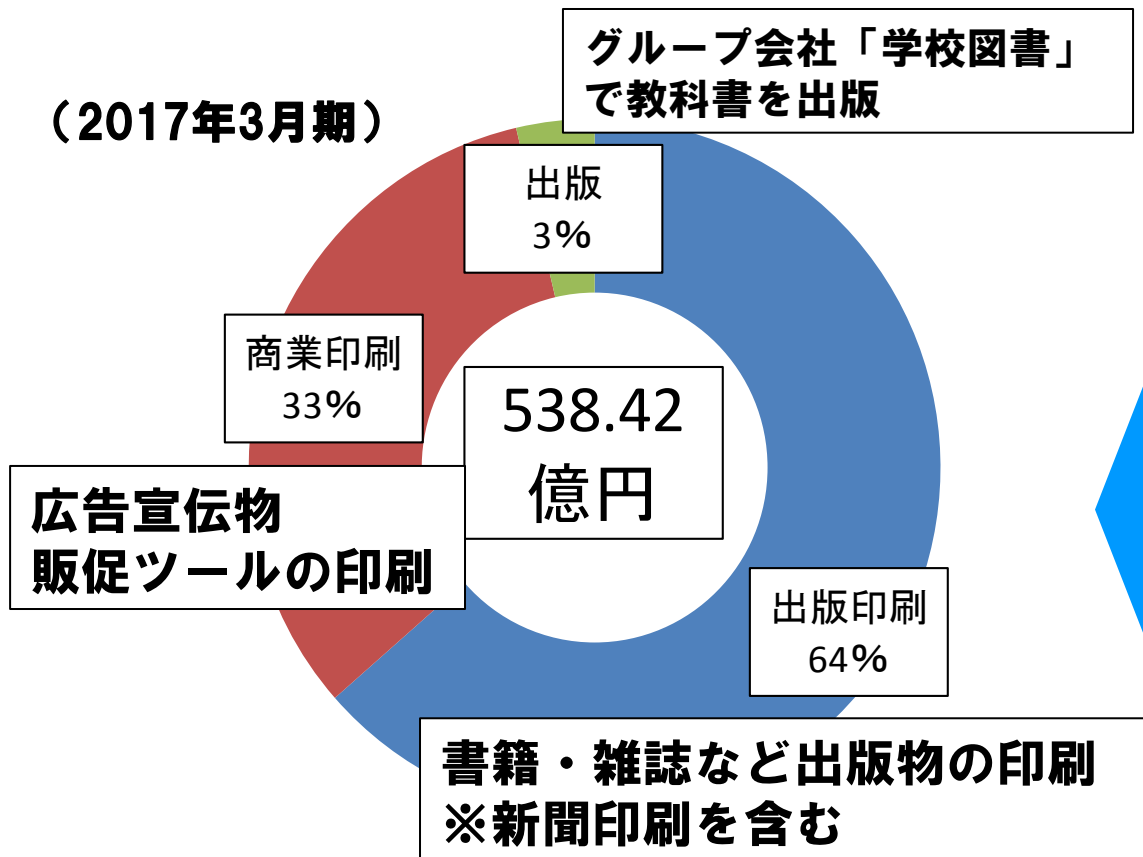


売上構成： 出版印刷が6割強と業界と比べて多い

当社

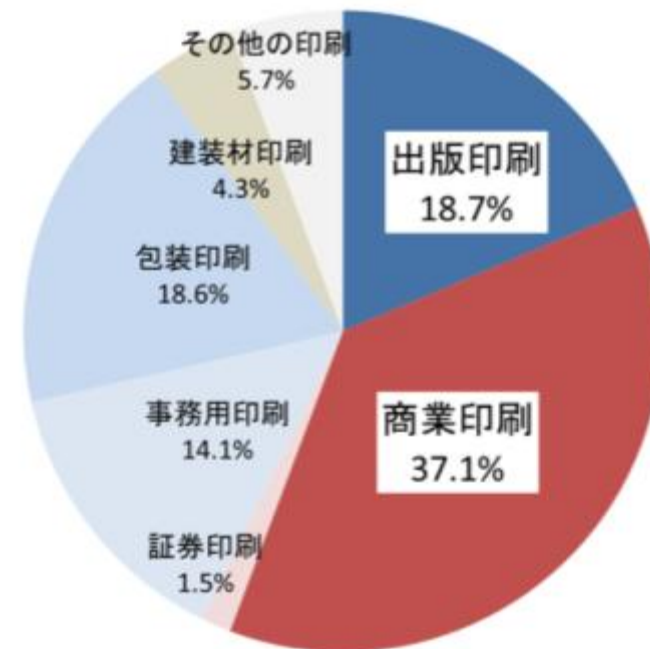
出版印刷6割強、商業印刷3割強

(2017年3月期)



印刷業界

出版印刷2割弱、商業印刷4割弱



印刷業界・印刷品目別生産金額
経産省「生産動態統計」2015年度

印刷業界の構造： 大手2社＋中堅8社でシェア約50%

シェアは「平成26年経済センサス-基礎調査結果」(総務省統計局)から算出

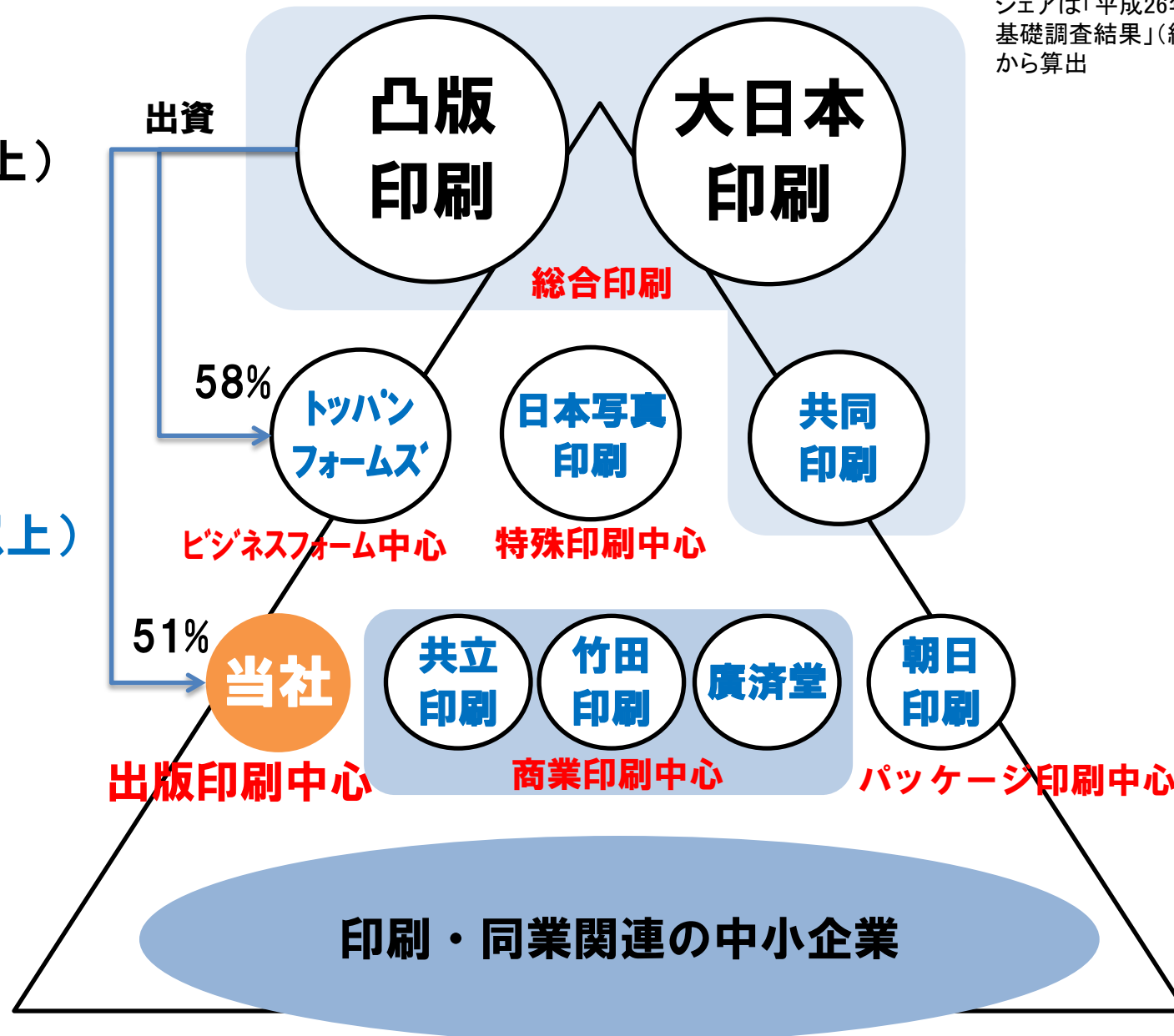
大手企業
(売上高1兆円以上)
2社

+

中堅企業
(売上高300億円以上)
8社

+

中小企業
約25,000社
(未上場含む)

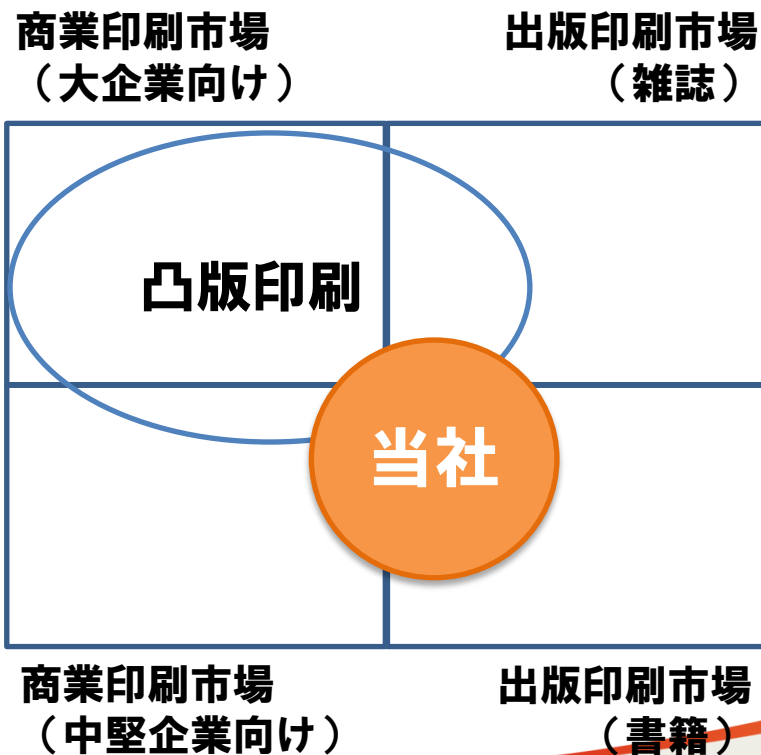
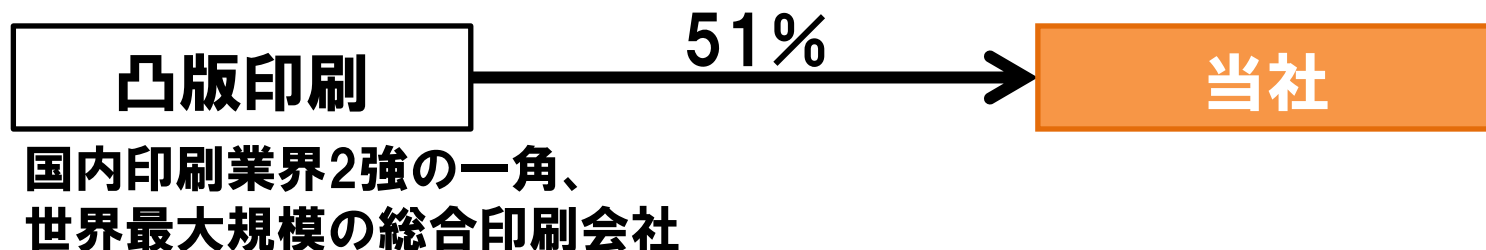


トッパングループ入りの経緯

出版・商業印刷での当社企業価値向上のための資本提携

昭和45年3月 凸版印刷（株）と業務提携

平成19年10月 凸版印刷（株）による子会社化（第三者割当増資）



シナジー・補完関係

- ・ 企画、開発、技術スキルの共有による顧客への提案力強化
- ・ 生産設備共有による生産効率向上
- ・ 共同購買による原価低減推進
- ・ ダブルブランドでの営業展開による、幅広い顧客範囲のカバー

-
1. 当社概要
 2. 特徴・強み
 3. 2017年3月期決算・2018年3月期見通し
 4. 中期経営計画（2017年度～2019年度）
 5. 株主還元策

当社の特徴・強み

顧客基盤力

- ・ **100年を超える歴史**で醸成された大手出版社など堅固な**顧客基盤**
- ・ **書籍・雑誌の出版印刷が主力**で、
出版社の企画・編集・制作部門との繋がりが強い

製造技術力

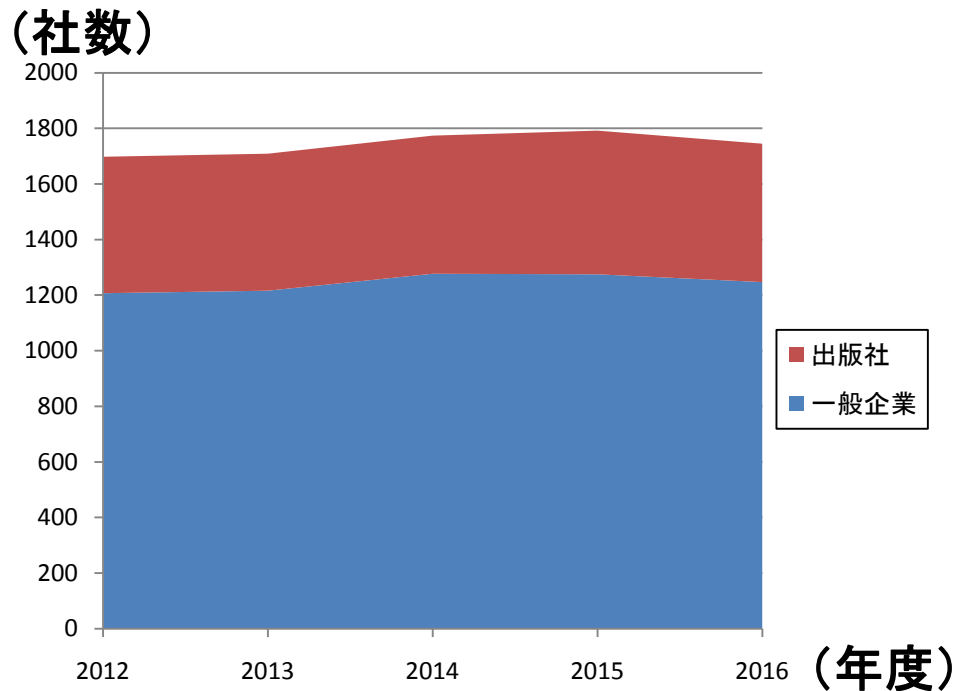
- ・ 「**大ロット印刷ライン**」を保有することで、出版物の印刷を中心に大部数でも、高度かつ安定した品質を提供できる
- ・ 「**一貫製造体制**」がある
- ・ 「**高い製本加工技術**」に裏付けられた、**高品質・付加価値印刷物**が提供できる

教育・文化事業ノウハウの保有

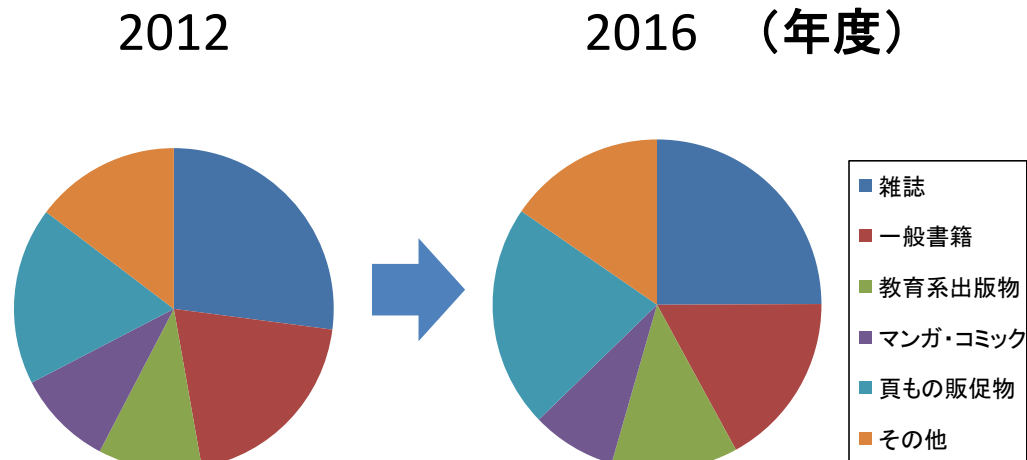
- ・ **教科書・新聞印刷**を通じて、「文化・教育分野」における長年の実績とノウハウを保有している

顧客基盤力

顧客数の推移



受注品目構成

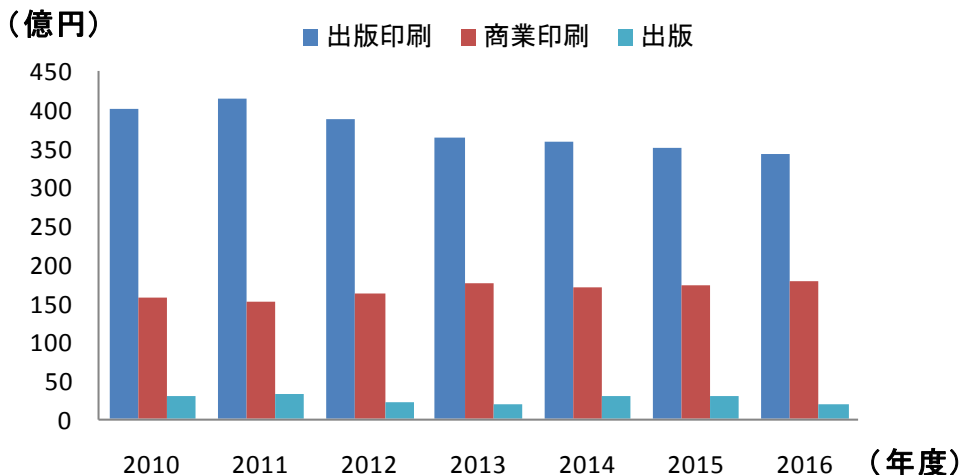


安定した顧客数 + 安定した受注構成

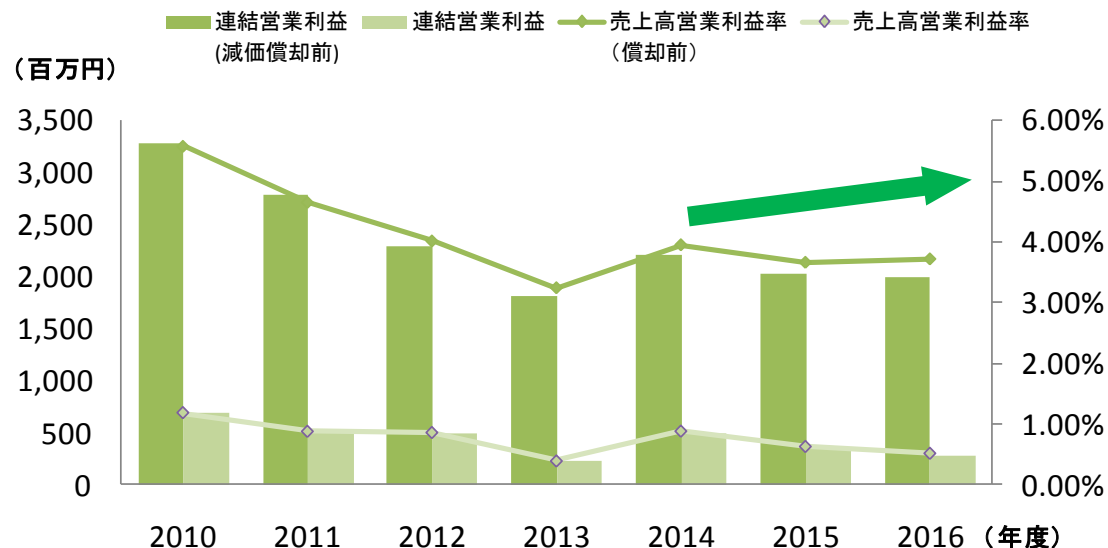
堅調な業績動向

当社業績動向： 業界動向を上回る堅調な伸び

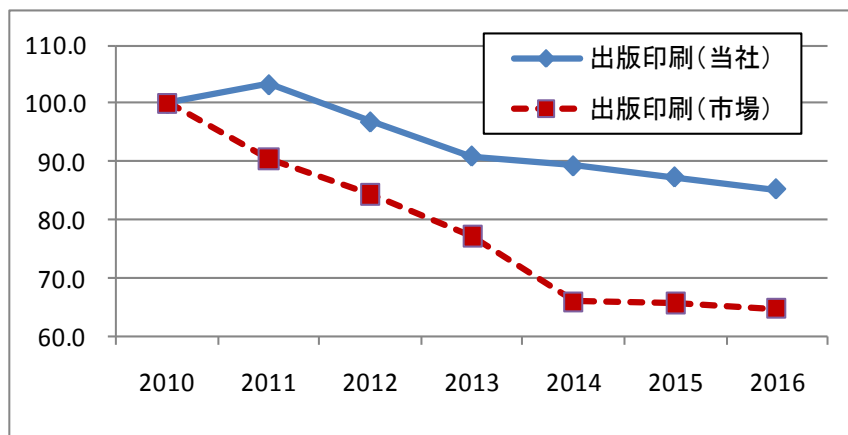
売上高推移



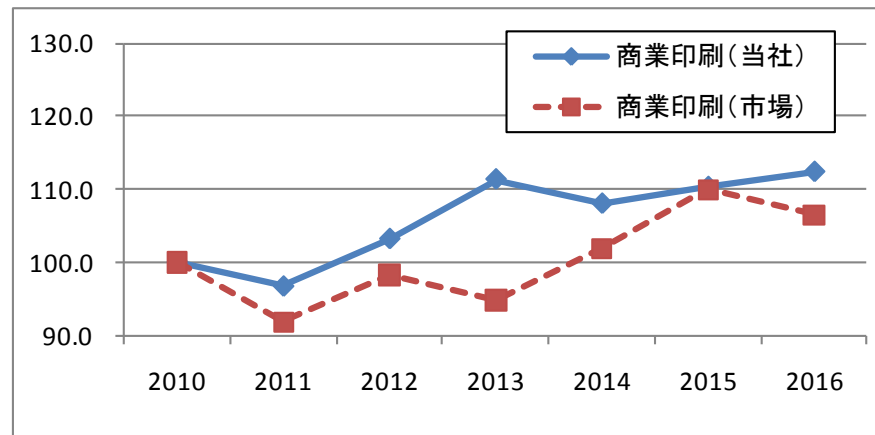
(償却前) 営業利益推移



出版印刷市場 vs 当社出版印刷売上



商業印刷市場 vs 当社商業印刷売上



(経済産業省「生産動態統計・産業編」 2016年：2010年=100、市場=暦年、当社=年度)

出版社との強い繋がり

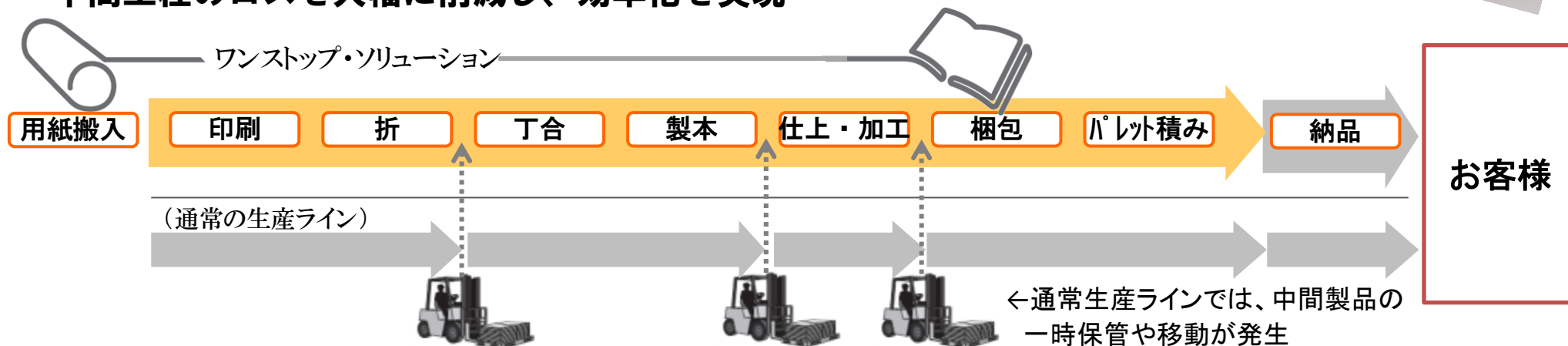
マンガ文化を支える図書印刷

印刷による情報発信の側面からマンガの普及・発展に貢献



コミックス一貫製造ライン: NBS(ニュー・ブック・システム)

沼津工場内の当社独自の高効率・高品質の製造システム。
多岐に渡る工程をダイレクトに繋いだ一貫ラインで生産。
中間工程のロスを大幅に削減し、効率化を実現



*印刷需要を掘り起こすために、多岐に渡るマンガ文化発展のための支援を展開

- ・デジタルメディア展開の企画・制作
- ・マンガキャラクターグッズの企画・制作・製造
- ・当社開発の印刷表現技法 「ミュージェットグラフ」による複製原画の制作・製造
- ・マンガキャラクターや世界観の活用による、一般企業のプロモーション企画・運営

製造技術力に裏付けられた高付加価値な商品①

多様な製本加工技術：小ロット・多様な印刷需要に対応可能

上製本、合紙絵本の設備・ノウハウはもちろん
主に児童向け書籍の分野において、
多様な製本・加工技術を適宜組合せ、楽しさと安全性に配慮した
高付加価値本の構造設計と製造を実施。

上製（ハードカバー）本

トッパングループでは、
当社のみが生産設備を保有。
ソフトカバー本と比較し、多くの
部品と製造工程を経て製造。
高い技術力と対応力が必要。



合紙絵本

当社は、国内で生産設備を保有する数少ない企業の一社。
幼児向けに適した仕様の絵本。
2枚以上の板紙を貼り合わせることで、厚みと強度を実現。



ポップアップ・しかけ絵本

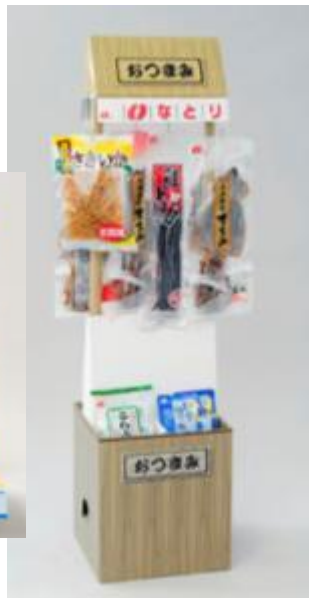
当社が日本で初めて
制作・製造技術を導入。
絵柄が飛び出したり、
物語の世界観に合わせた構造上の
仕掛けなどが施された絵本。
長年にわたる様々なノウハウを蓄積。



製造技術力に裏付けられた高付加価値な商品②

コンテンツ加工能力を生かした販促ツール制作

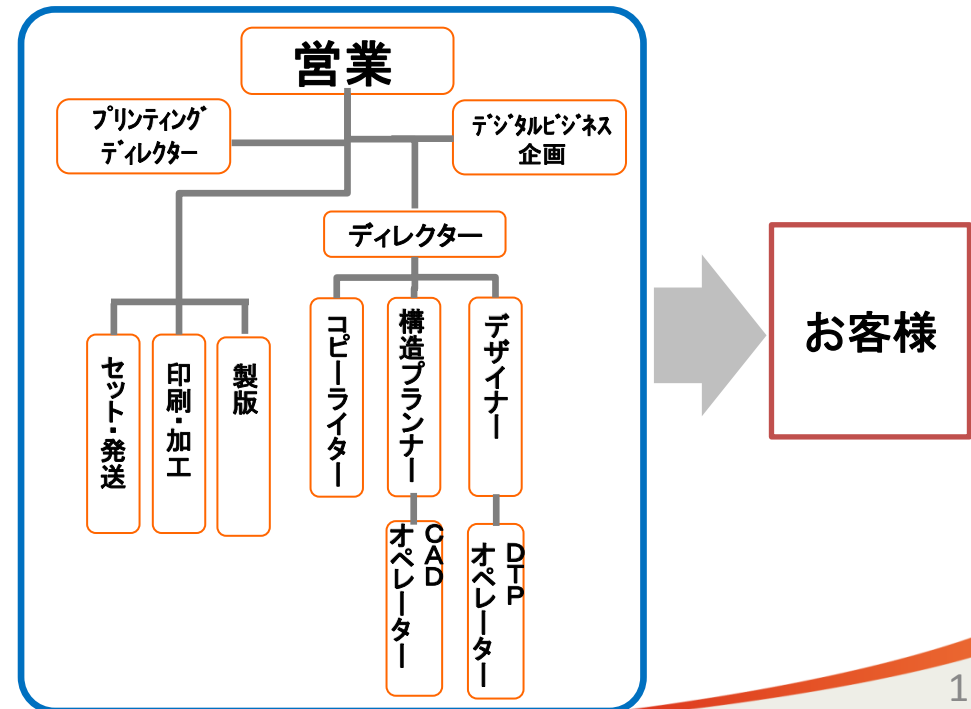
企画・構造設計のノウハウを活かして、
小売店店頭のPOPツールや
ディスプレイ等を制作・製造。
商品特性に合わせ、注目効果の高い形状
や、耐久性・安全性などの要素に配慮。



専属デザイン制作チーム

店頭POPなど短納期・多品種・大量制作
案件は、「**専属制作チーム**」で、企画から
デザイン・製造までをワンストップで対応。
**お客様の業務効率化と当社印刷業務の
バリューチェーン拡大を実現。**

【当社体制例】



教育・文化関連の印刷事業に強み

印刷事業を通して教育・文化事業の知見を獲得、収益源として成長

教科書発行

グループ会社「学校図書」が担当。
小中学校の教科書、教材、教育関連書籍を発行。教育業務ノウハウを蓄積。近年は、デジタル教材にも対応。



新聞印刷

グループ会社「関西図書印刷」が担当。
大手新聞社の関西地区での
日刊紙印刷を3工場受託生産。
大ロットで安定した印刷品質を提供。



茨木工場

京都工場



神戸工場



1. 当社概要
2. 特徴・強み
3. **2017年3月期決算・2018年3月期見通し**
4. 中期経営計画（2017年度～2019年度）
5. 株主還元策

2017年3月期決算ハイライト①（全体）

（単位：百万円）

	2016年 3月期	2017年 3月期	前期比	2017年3月期 業績予想	予想比
売上高	55,271	53,842	97.4%	54,000	99.7%
営業利益	351 (0.6%)	283 (0.5%)	80.6%	400	70.8%
経常利益	911	788	86.5%	950	82.9%
親会社帰属 当期純利益	463	10,687	+10,224	470	+10,217

- ・ 売上高： 主力の出版印刷、商業印刷とも堅調
- ・ 営業利益： 株式売却による事業税の発生で減少
- ・ 親会社帰属当期純利益： リクルートHD株式売却等で特別利益16,352百万円計上

2017年3月期決算ハイライト②（事業別売上高）

（単位：百万円）

	2016年 3月期	2017年 3月期	前期比 (%)	2017年3月期 業績予想
売上高	55,271	53,842	97.4%	54,000
印刷事業	52,390	51,883	99.0%	52,000
出版印刷	29,021	29,103	100.3%	29,000
商業印刷	17,373	17,697	101.9%	18,000
新聞印刷	5,995	5,081	84.8%	5,000
出版事業（教科書）	2,880	1,958	68.0%	2,000

- ・主力の出版印刷と商業印刷は、共に堅調
- ・新聞印刷は、取引条件の変更により減少
- ・出版事業は、教科書改訂サイクルの端境期で前年よりも減少

2017年3月期決算ハイライト③（事業別営業利益）

（単位：百万円）

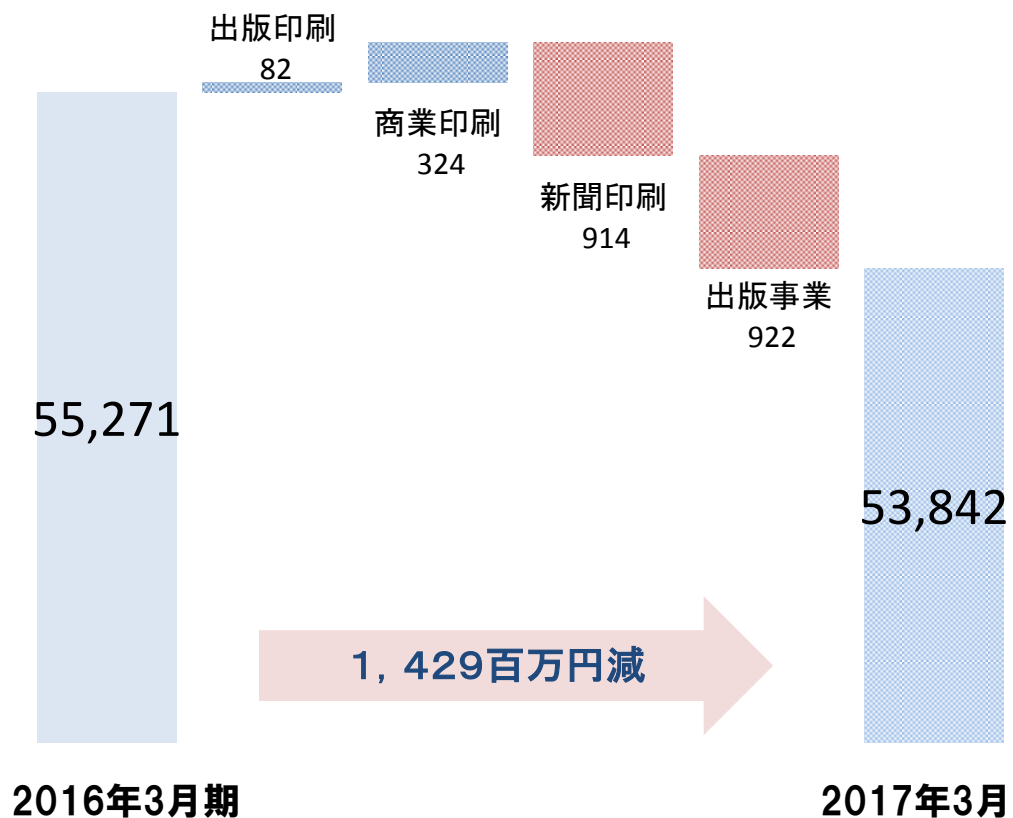
	2016年 3月期	2017年 3月期	増減額
営業利益	351	283	△68
印刷事業	317	411	+94
出版・商業印刷	153	249	+96
新聞印刷	163	162	△1
出版事業（教科書）	21	△131	△152
連結調整	12	3	△9

- ・ 出版印刷と商業印刷は効率性が改善して収益性が向上
- ・ 新聞印刷は、今期も安定収益を確保
- ・ 出版事業は、教科書改訂サイクルの端境期で前年よりも減少し、今期は赤字計上

2017年3月期決算概要・業績要因分析

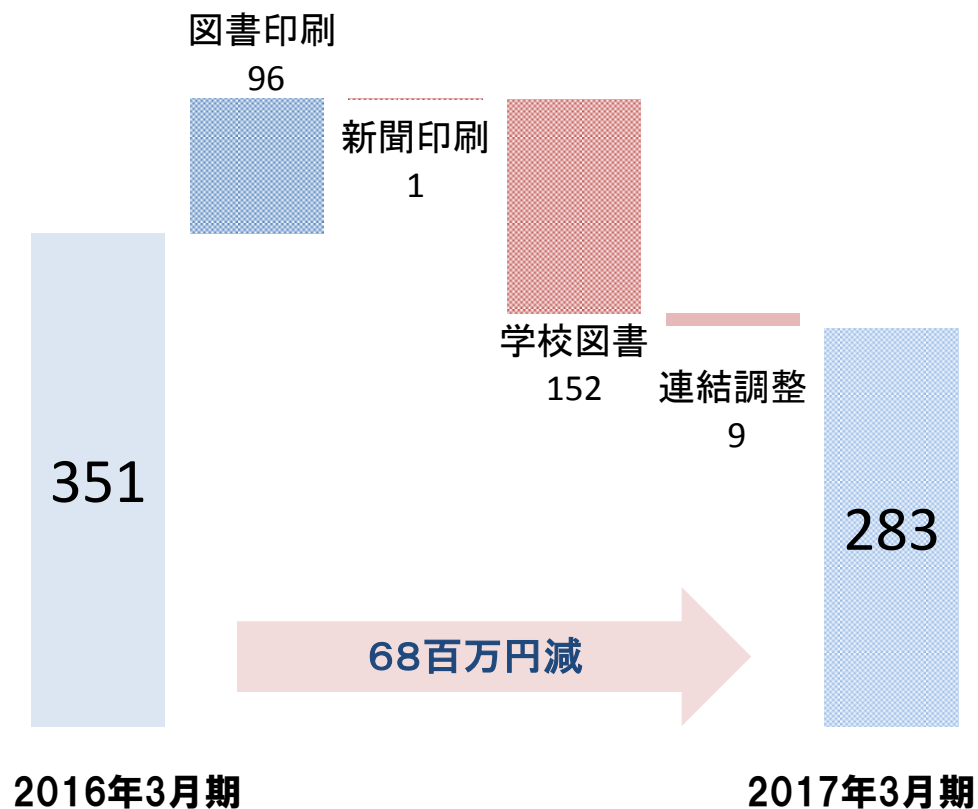
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



2017年3月期・キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2016年 3月期	2017年 3月期	対前年増減概要
現金及び現金同等物の期首残高	12,283	12,673	
営業活動キャッシュ・フロー	2,069	3,407	売上債権 +1,916 仕入債務 -938
投資活動キャッシュ・フロー	-1,496	3,493	株式売却 +17,021 有価証券取得 -11,500 設備投資 -435
財務活動キャッシュ・フロー	-182	-188	
現金及び現金同等物の増減額	390	6,713	
現金及び現金同等物の期末残高	12,673	19,386	

- ・ 有価証券売却により投資活動キャッシュ・フローが増加

2018年3月期業績予想（全体）

（単位：百万円）

	2017年 3月期実績	2018年 3月期予想	増減額	前期比 (%)
売上高	53,842	54,000	+158	+0.3%
営業利益	283 (0.5%)	600 (1.1%)	+317	+111.8%
経常利益	788	950	+162	+20.5%
親会社帰属 当期純利益	10,687	500	-10,187	-

- ・ 売上高 : 出版印刷、商業印刷は市場のシェアアップを継続
新聞印刷、教科書事業は横ばい
- ・ 営業利益 : 労務費等の固定費削減、物流収支の改善で増益を想定
株式売却での事業税増は想定せず
- ・ 親会社帰属当期純利益 : 株式売却等で特別利益を想定せず

2018年3月期業績予想（事業別売上高）






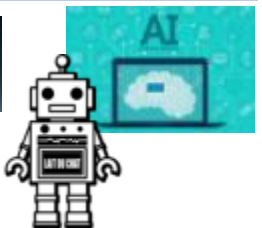





（単位：百万円）

	2017年 3月期実績	2018年 3月期予想	増減額	前期比 (%)
売上高	53,842	54,000	+158	+0.3%
印刷事業	51,883	52,000	+117	+0.2%
出版印刷	29,103	29,000	-103	-0.4%
商業印刷	17,697	18,000	+303	+1.7%
新聞印刷	5,081	5,000	-81	-1.6%
出版事業（教科書）	1,958	2,000	+42	+2.1%

- ・ 2017年3月期業績予想と同様

1. 当社概要
2. 特徴・強み
3. 2017年3月期決算・2018年3月期見通し
4. **中期経営計画（2017年度～2019年度）**
5. 株主還元策

情報メディア(媒体)は大きな転換点を迎えている

	～19世紀	20世紀	21世紀			
技術トレンド	 活版印刷技術	 写真技術	 電波送受信技術	 インターネット技術 デジタル技術	 モバイル技術 高速通信技術 大容量技術	 ロボット技術 AI・分析技術
						
	デジタル化により情報量が飛躍的に増大 人間の情報処理能力にも限界が出てきた					
ニーズ	記録・記憶に残したい					
	多くの人に伝えたい・届けたい			自分で情報を発信したい		
	効率的かつ楽に情報を得たい					
情報メディア	 紙媒体	 新聞・雑誌・ ラジオ・テレビ マスコミュニケーション媒体	 eメール HTML 電子媒体	 Facebook Twitter SNS媒体	最適な メディア ミックス	
印刷技術			DTP化 フィルムレス	刷版レス デジタル印刷機	Web to Print	

中長期経営計画策定の背景と意義

(背景) インターネット化・デジタル化が進むメディア市場で
持続的に成長していくためには、
従来の発想を変えて、新しい印刷需要を掘り起こす必要があり、
そのためには、ビジネスモデルの変革が必要

事業環境

情報媒体のインターネット化・
デジタル化で
印刷業界の市場動向に不透明感あり。

脅威

当社

売上の9割以上を
出版印刷・商業印刷が占め、
紙メディアの印刷を通じて、
安定した収益を上げてきた。

(事業環境のもう一つの見方)

だが、データ通信量の推移から情報発信
の機会が飛躍的に増加している。その中
には、情報の閲覧性・保存性のニーズが
存在し、紙メディアの利用価値は
今後も出てくる可能性。

機会

(当社の取るべき道)

ビジネスモデルを変えて、
デジタル社会の紙印刷需要を取り
込むことが
当社の企業価値を持続的に向上
するために必要と判断、
「中長期経営計画」を策定。

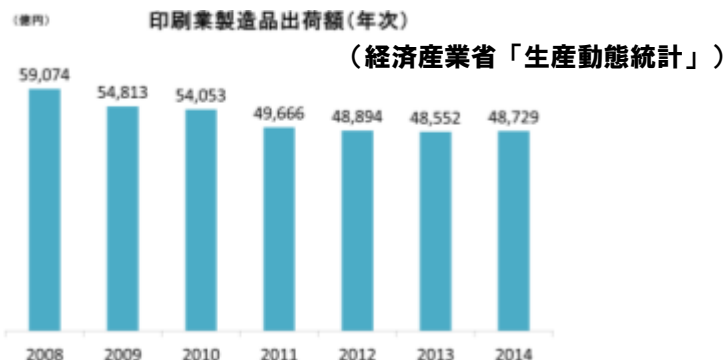
将来

中長期経営計画（2017年度～2025年度）

社会的背景：メディアのデジタル化・電子化

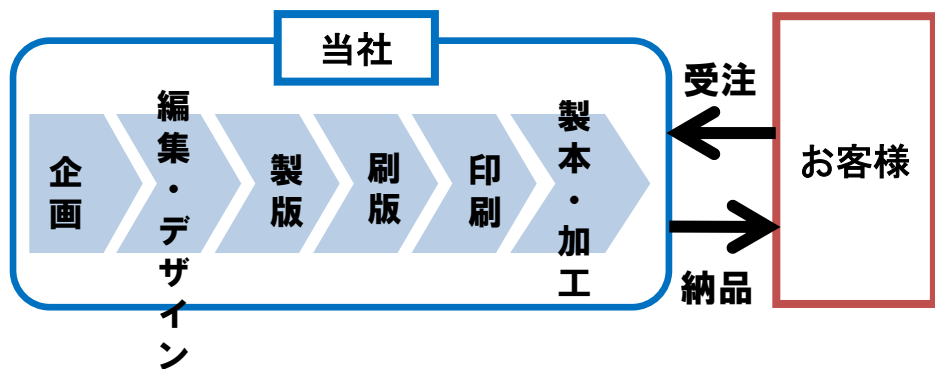
従来型総合印刷会社

成熟する印刷市場



+

出版社などを顧客とする印刷の受注



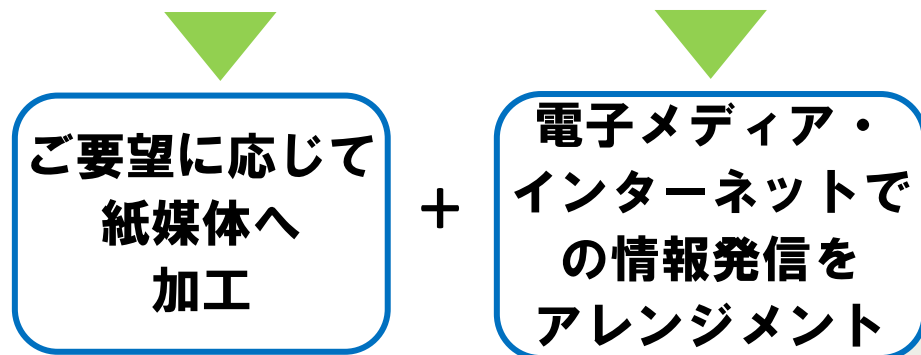
情報をデザインする企業

爆発するデータ通信量



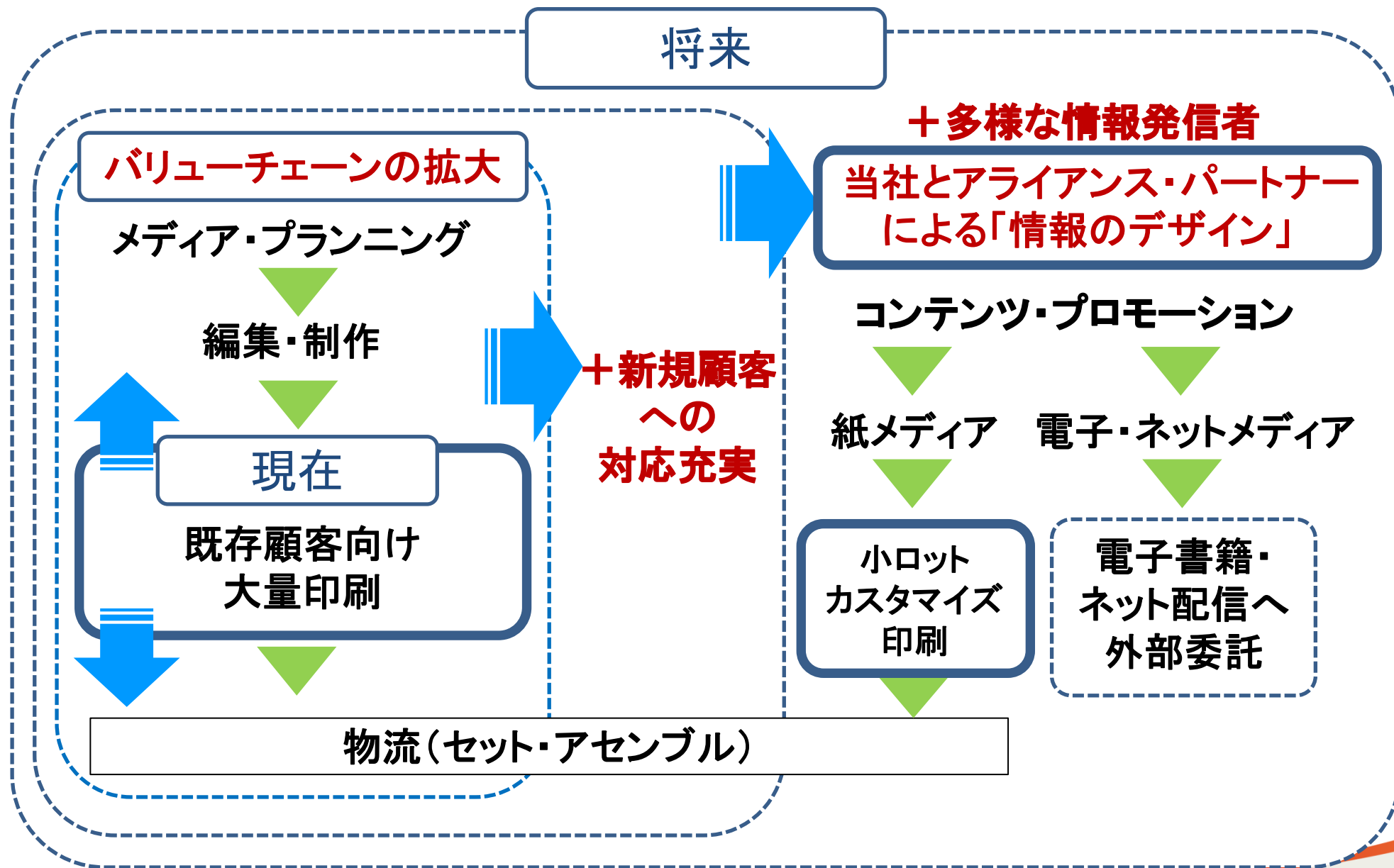
+

情報発信ニーズをデザイン



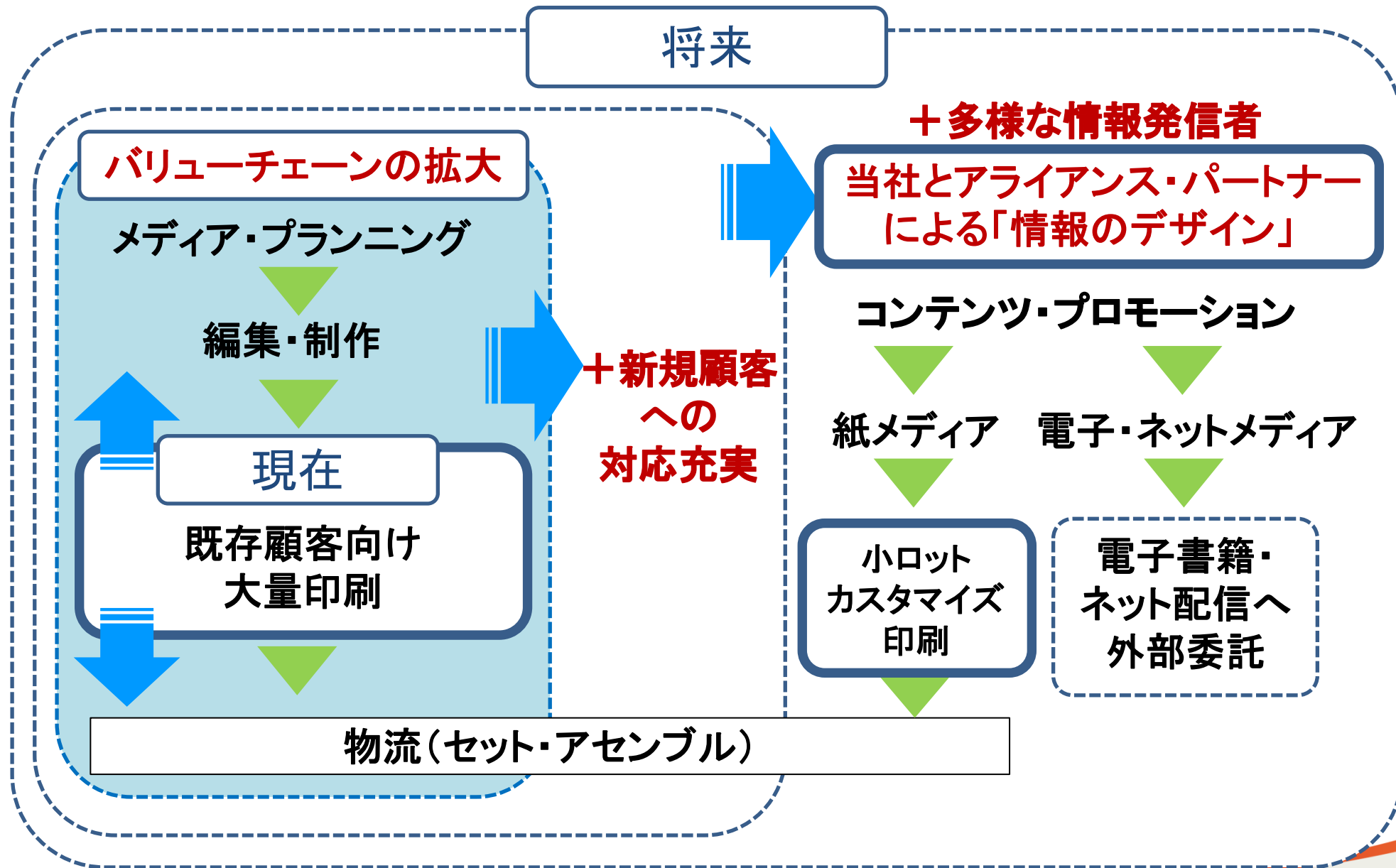
企業変革

中長期経営計画実現のプロセス（2017年度～2025年度）



中長期経営計画 第1ステージ(2017年度～2019年度)

中長期経営計画の当初3年間・土台作り



第1ステージ:中長期経営計画の当初3年間・土台作り

①市場環境変化を見据えた**事業構造転換**

- ・業務プロセス見直しでの業務効率化と収益力改善
- ・製造プロセスの省力・省人化による製造原価低減

均一大ロット印刷⇒多品種小ロット印刷まで網羅する生産体制整備
(オフセット印刷機+デジタル印刷機)

②新しい市場創出に向けた積極投資

- ・印刷事業における**バリューチェーン拡大**
⇒メディア・プランニング、編集・制作、物流機能強化、新市場開拓
- ・製造技術力の向上に対する投資加速
⇒技術開発、制作効率化支援、紙以外の印刷設備導入（UV、フレキソ）

③文化・教育分野の事業領域拡大（教育コンテンツ拡充、ICT活用）

総額300億円を投資(2017年度～2019年度)

事業構造転換100億円＋事業領域拡大200億円

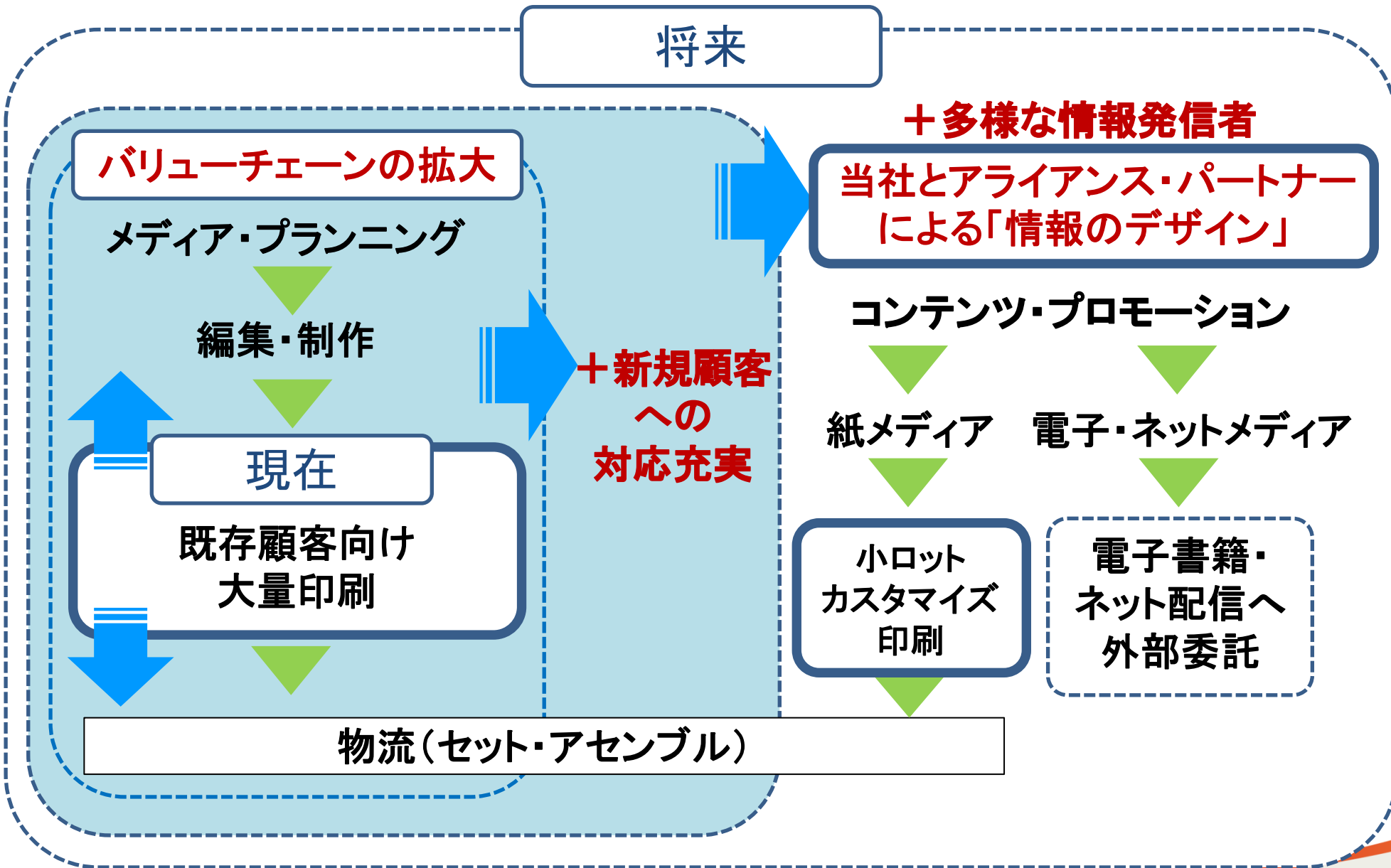
投資項目		投資額（億円）	内容
事業構造 転換	生産・ 業務効率化	100	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹システムの全面刷新 ・ 製本工程の省力・省人化設備 ・ 小ロット向け印刷機・加工設備
	受注拡大・ 新商材開発		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高付加価値印刷機・加工設備 ・ ショートランビジネスモデル開発
事業領域 拡大	印刷周辺 事業	200	<ul style="list-style-type: none"> ・ メディア・プランニング、 編集・制作、物流分野のM&A ・ デジタルメディア分野への投資
	文化・教育 事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT教育分野への投資 ・ 学校図書館の事業領域拡大
合計		300	

中期経営計画(2017年度～2019年度) 定量目標

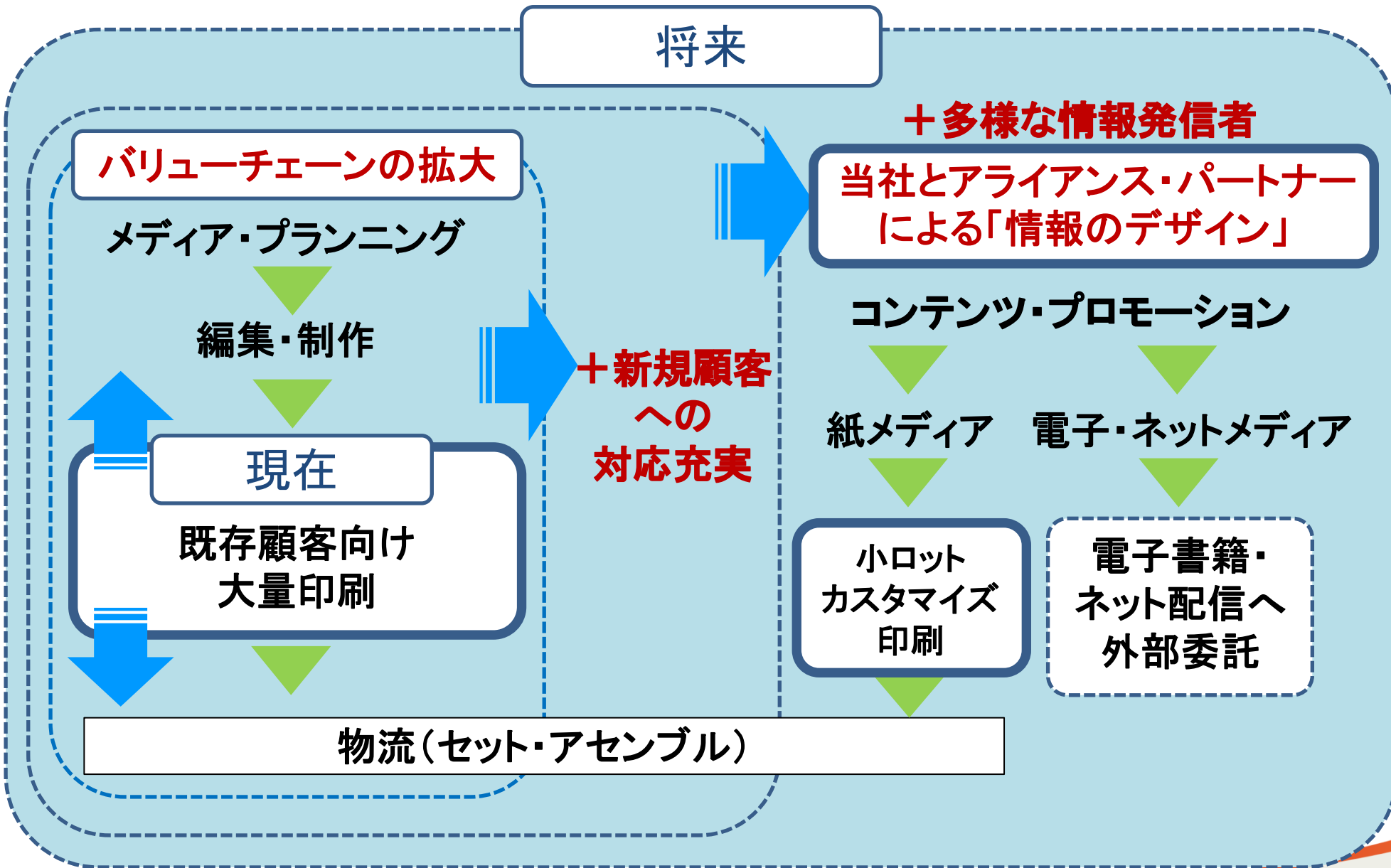
事業構造転換＋事業領域拡大

	2016年度 (2017年3月期)	2019年度 (2020年3月期)
売上高	538億円	600億円
営業利益	2.8億円	12億円
営業利益率	0.5%	2.0%
償却前営業利益	20億円	54億円
償却前営業利益率	3.7%	9.0%
ROE	16.9%	1.7%

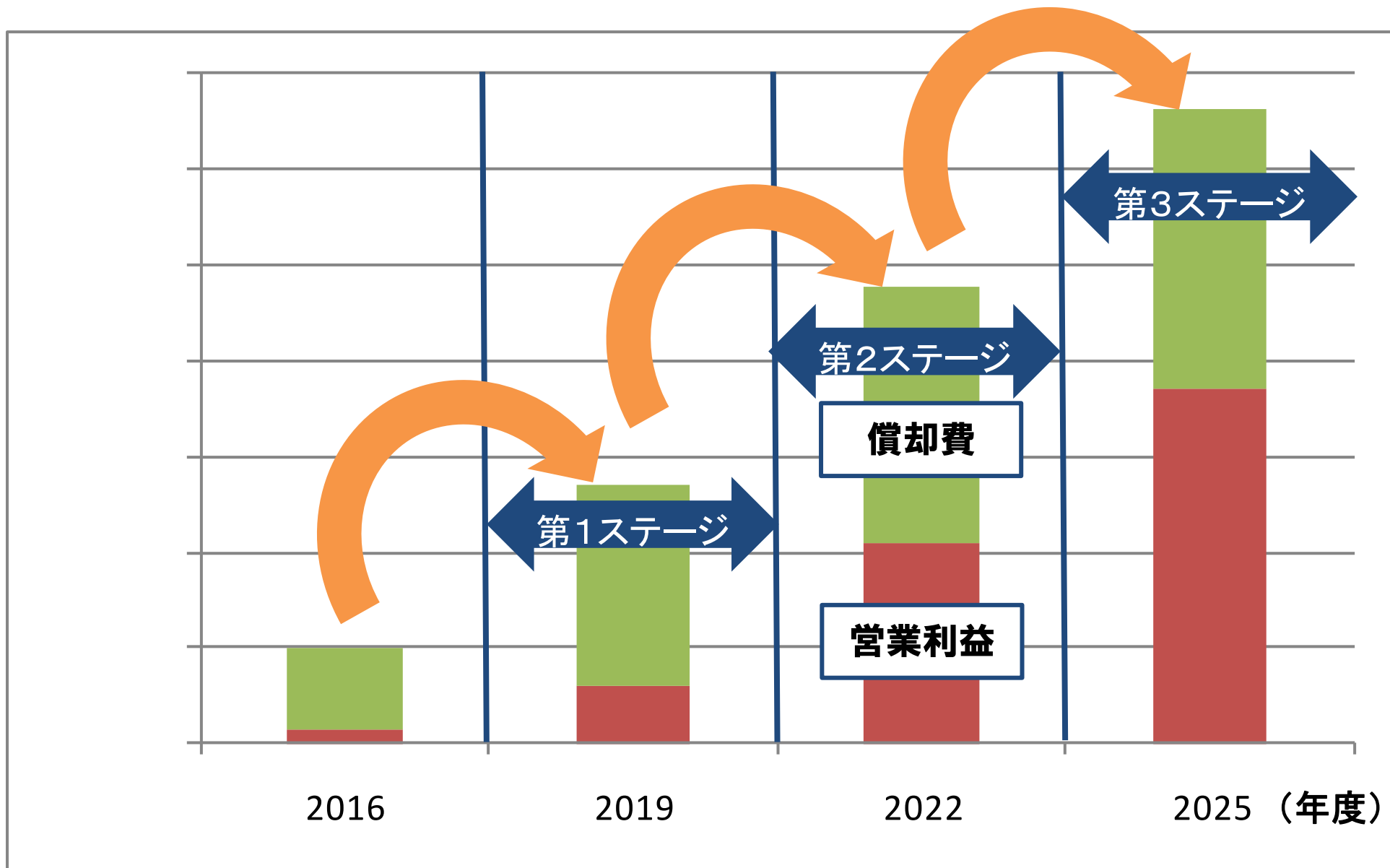
事業領域拡大へバリューチェーン拡大を本格化



多様な発信ニーズを最適な形にするデザインする事業の確立



2025年度までの9年間における業績イメージ(営業利益)



第1ステージの直近の動きについて(2017年4月～)

(組織体制)

2017年4月より

- ・ **業務改革プロジェクトをオフィシャルに組織化(2016年3月スタート)**
- ・ **デジタル印刷準備室を新設(2015年度から検討開始)**
- ・ **新ビジネスの検討機能を部として昇格(2015年度から推進室を設置)**
- ・ **技術開発本部にF A・ロボットチームを新設**

(当面の動き)

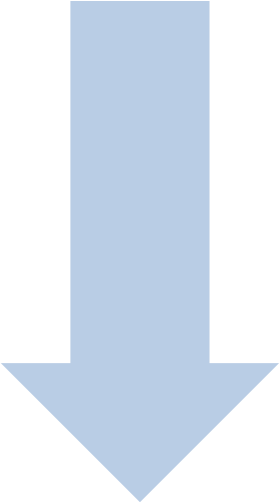
- ・ **基幹システムの全面刷新に着手**
- ・ **出版デジタルショートランのビジネスモデル開発着手**
- ・ **製本加工工程における自動化・省力化設備の導入**
- ・ **バリューチェーン拡大に向けたM&Aの検討・推進**
- ・ **事業領域拡大に向けた人的リソースの拡充**

-
1. 当社概要
 2. 特徴・強み
 3. 2017年3月期決算・2018年3月期見通し
 4. 中期経営計画（2017年度～2019年度）
 5. 株主還元策

株主還元策

配当政策

・株主の皆様への安定配当継続



※2017年3月期中間期は、
投資有価証券売却益163億4千万円を計上
企業体質強化や企業価値向上投資のため
一定水準の内部留保資金は確保と認識

・株主の皆様へ積極的に還元

2017年3月期：期末配当金 1株当たり4円(前期は2円) 予定

2018年3月期：期末配当金 1株当たり8円*

予想連結配当性向 68.5%

*2017年10月に2株を1株に併合予定

免責条項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。

お問い合わせ先： 図書印刷（株） CSR推進部 広報G

ir@tosho.co.jp